

所蔵作品展 **パッション20 今みておきたい工芸の想い**

20 passions for Crafting Crafts

2019年12月20日[金]—2020年3月8日[日]

2019年度日本博を契機とする
文化資源コンテンツ創成事業**東京の工芸館で最後の展覧会！**

図版No.1 鈴木長吉《十二の鷹》1893年（部分）

工芸を「パッション(情熱)」の語とならべて考えることは、もしかしたら普段はあまりないかもしれませんが。なぜなら工芸に注がれるパッションは姿かたちや質感にすっかり溶け込んで、むしろ背景の諸事情をいちいち分析する間もなく味わえるよう整えられてきたからです。しかし何を選び、未来へとつなげるのかを考える今、工芸に託されてきた知恵と愛とを見過ごしてしまったらもったいない！

来年はいよいよオリンピックイヤー。世界との出会いは国際的な視野を広げるだけでなく、私たちの内側に目を向ける好機でもあります。日本の近代は工芸を通して何を感じ、想いを託してきたでしょうか。工芸家の言葉や活動・出来事から20を抽出し、工芸館の名品約150点によりそれぞれの局面に浮かび上がるパッションをご紹介します。

本展のポイント

- 重要文化財に指定されてから初めて、シカゴ万博当時の姿で鈴木長吉の《十二の鷹》を大公開します。日本の「現代美術」を世界に発信したいと願ったジャパン・プライドの迫力と向き合います。
- 超絶技巧からオブジェまで、パッションでひもとく工芸の100年を展覧します。オールカラーの『パッション・ブック』（セルフガイド）も配布します。（先着20,000名）
- 作家は何を想いながらその手を動かすのでしょうか。映像と音とで伝えるパッションムービーを上映します。
- 東京国立近代美術館工芸館は、2020年に国立工芸館（通称）として石川県金沢市へ移転するため、東京の工芸館では本展が最後の展覧会です。重要文化財の赤レンガの建物で工芸鑑賞が出来るのも、残りわずかです。

現在の工芸館は、日本で最初の国立美術館である東京国立近代美術館の分館として、建築家・谷口吉郎が改修を手がけ、昭和52(1977)年に開館しました。工芸館の赤レンガの建物は、明治43(1910)年に建てられた旧近衛師団司令部庁舎を保存活用したもので、現在、重要文化財に指定されています。



図版No.2 平田郷陽《桜梅の少将》1936年

20のキーフレーズを5章に分けて構成し、時代を超えた普遍的なパッション（情熱）と、1つの時代に浮かび上がるパッションの協奏をそれぞれ展観します

日本人と「自然」

①作ってみせる ②囲みとって賞でる

まゆから糸を引きながら、たえず震えるはかなさと切れずに1本につながる強さとがないまぜとなった触覚に、蚕の生命の痕跡をたどる志村ふくみ。藍の青の深さと広がり、かつて水辺の光景に息をのんだ記憶が呼び覚まされます。後期は「衣通姫（そとおひめ）」の伝承を想起させる喜多川俵二作品を展示します。



図版No.3 志村ふくみ《絨織着物 水瑠璃》1976年

オン・ステージ

③垂れ下がって気を吐く ④ジャパン・プライド

壁から突き出た巨大な赤い手ぶくろ。国際ビエンナーレに出品されて以来、見る人に驚きを与えてきました。しかしダラリと垂れ下がる姿はどこかユーモラスでもあるような…。世界のひのき舞台上で日本人作家が意識した染織における日本的なものへの創意と国を挙げて世界へと向かっていった鈴木長吉の《十二の鷹》のパッションを対照します。



図版No.4 小名木陽一《赤い手ぶくろ》1976年

回転時代

⑤モダンv古典 ⑥キーワードは「生活」 ⑦古陶磁に夢中
⑧線の戦い ⑨私は旅人

官展（文展・帝展）への参加を目指して運動が活発化した大正から昭和初期の工芸界。モダン派か古典派か。立場は異なっても共通したのは時代を切り開き、工芸美を確立しようとする意志でした。同時期に「民芸」「桃山復興」なども進展し、互いに批判したり、そうかと思えば訪問しあったり。興味のつきない時代です。



図版No.5 内藤春治《壁面への時計》1927年

伝統⇔前衛

- ⑩「日常」 ⑪人間国宝 ⑫オブジェ焼き ⑬日本趣味再考
⑭生地も一色 ⑮「工芸的造形」への道 ⑯素材との距離

「荒涼とした時にこそ美しいものを届けたい。」芹沢銈介がカレンダーなどの量産を本格的に始めたのは戦後まもなくのこと。仕事場も大量の蒐集品も失った焼け跡での想いは、分業システムにも創作の芽を吹かせました。「人間国宝」や「オブジェ焼き」といったきわめて日本的な事象とともに、それらに通底する理論を模索した作家・研究者の協同作業を検証します。

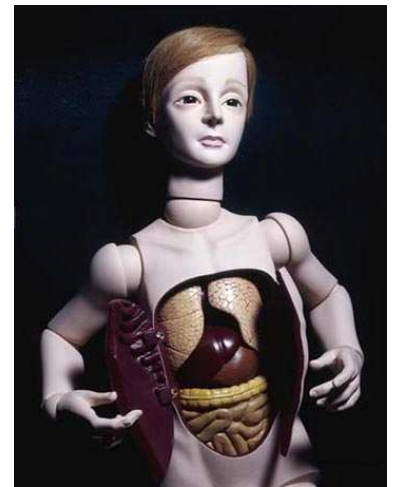


図版No.6
芹沢銈介《1948年のカレンダー（4月、5月、6月）》1947年

工芸ラディカル

- ⑰瞬間、フラッシュが焚かれたみたいだった
⑱オブジェも器も関係ない ⑲人形は、人形である ⑳当事者は誰か

腹部を大きく広げて文字通り内臓された諸器官を見せています。怖い？でもうるんだ目の視線の先が気になります。可愛い？—こどもの頃から人形に魅了され、その奥底にあるだろう世界観を長年探っていた四谷シモン。関節人形との出会いは、人工物でありながら情念の器としてその身を呈してきた人形と人との関係性を根源的に見つめ直すきっかけをもたらしました。



図版No.7 四谷シモン《解剖学の少年》1983年

参加したり、見たり、さまざまな関連プログラムをご用意しています

● イベント

#20passions（会期中 先着2020名）

あなたのパッションで誰かのパッションを呼び覚ましましょう。「#20passions」をつけて、会期中工芸館で撮影したパッションナブルな写真をSNSで発信していただいた方に工芸館オリジナルの「パッション・バッグ」をプレゼント。※SNSに登録していない方はメールでパッションを届けていただいてもOKです。

バッジ&トーク

（1/19 [日]、2/16 [日] 各日10:30-12:00、13:00-15:30 各回先着50名）
作品のパッションにググッときたら、レバーをググッと押してオリジナルの缶バッジづくりに挑戦しましょう。バッジに封じ込めたパッションといっしょに工芸館の思い出もお持ち帰りください。

● パッションムービーズ（会期中会場で上映）

工芸は素材のほとんどが自然に由来するものです。しかし人びとの必要なことや快をかなえるためにさまざまな工夫がほどこされ、私たちの前に置かれるときには自然界にあったときとは様変わりした人工物の美を発散します。自然→人工。この「→」のあいだに何が起きているのでしょうか。またそこにはどのような想いが託されたのでしょうか。上原美智子（染織）、高橋禎彦（ガラス）、橋本真之（金属）の工房から熱いパッションを視覚と音とを通して届けます。



参考画像 過去のイベントの様子

開催概要

展覧会名(日)	所蔵作品展 パッション20 今みておきたい工芸の想い
展覧会名(英)	20 passions for Crafting Crafts
会期	2019年12月20日 [金] - 2020年3月8日 [日]
会場	東京国立近代美術館工芸館 (千代田区北の丸公園・竹橋) 〒102-0091 東京都千代田区北の丸公園1-1
主催	東京国立近代美術館、文化庁、独立行政法人日本芸術文化振興会
開館時間	午前10時～午後5時 (入館は閉館30分前まで)
休館日	月曜日 (1月13日、2月24日は開館)、年末年始 (12月28日 [土] - 2020年1月1日 [水・祝])、1月14日 [火]、2月25日 [火]
アクセス	東京メトロ東西線「竹橋駅」1b出口 徒歩8分 東京メトロ東西線・半蔵門線 / 都営新宿線「九段下駅」2番出口 徒歩12分
観覧料	一般250円 (200円) 大学生130円 (60円) 高校生以下および18歳未満、65歳以上、「MOMATパスポート」をお持ちの方、友の会、賛助会員 (同伴者1名まで)、MOMAT支援サークルパートナー企業 (同伴者1名まで、シルバー会員は本人のみ)、キャンパスメンバーズ、障害者手帳をお持ちの方とその付添者 (1名) は無料。 * () 内は20名以上の団体料金。いずれも消費税込。 * 割引・無料には入館の際、学生証・運転免許証など年齢のわかるもの、会員証、社員証、障害者手帳をご提示ください。 無料観覧日: 1月2日 (木)、1月5日 (日)、2月2日 (日)、3月1日 (日)
トークイベント	●アーティストトーク 各日14:00-15:00 1/13 (月・祝) 古伏脇司 (漆芸家) 1/26 (日) 須藤玲子 (テキスタイル・デザイナー) 2/23 (日) 築城則子 (染織家) 2/24 (月・休) 十三代三輪休雪 (陶芸家) ●撒蠟デモ&トーク 1/12 (日) 14:00-15:30 福本繁樹 (染色家) ●ギャラリートーク 各日14:00-15:00 1/5 (日)、2/9 (日) ●タッチ&トーク 会期中 水・土曜日 14:00から約60分 ●Touch & Talk in English (英語タッチ&トーク) 2月15日 (土) 11:00-12:00、2月28日 (金) 14:00-15:00 3月6日 (金) 14:00-15:00、3月7日 (土) 11:00-12:00 いずれも申込不要・参加無料 (要当日観覧券)

報道関係の方の
お問合せ先

東京国立近代美術館工芸館

展覧会担当/今井、西岡 広報担当/島田

Tel: 03-3211-7781 (工芸課直通) E-mail: kogeipr@momat.go.jp

掲載用お問合せ先

Tel: 03-5777-8600 (ハローダイヤル)

公式HP

<https://www.momat.go.jp>

広報用図版 請求票

FAX: 03-3211-7783(工芸課) 広報担当 行

発信日 年 月 日

<input checked="" type="checkbox"/>	No.	作品
	1	鈴木長吉《十二の鷹》1893年(部分)
	2	平田郷陽《桜梅の少将》1936年
	3	志村ふくみ《紬織着物 水瑠璃》1976年
	4	小名木陽一《赤い手ぶくろ》1976年
	5	内藤春治《壁面への時計》1927年
	6	芹沢銈介《1948年のカレンダー(4月、5月、6月)》1947年
	7	四谷シモン《解剖学の少年》1983年

*上記作品はすべて東京国立近代美術館蔵

- ・ご希望の図版の左枠内に✓を入れてFAXまたはメールでお送りください。
- ・図版はJPEGデータをご用意しています。使用する場合は、指定されたクレジットを併記してください。
- ・図版は原則、全図でご使用ください。トリミング、部分使用、文字のせは無断で行わないでください。
- ・展覧会広報のみにご使用ください。他の目的でのご使用は固くお断りいたします。
- ・掲載見本を広報担当者へご寄贈ください。(Webサイトの場合は掲載時にお知らせ下さい)

御芳名

貴社名

出版物・放送番組・webサイト名など(発行日等):

URL <http://www>.

TEL

FAX

E-MAIL

* 展覧会をご紹介いただける場合は、読者プレゼント用招待券をご用意しております。
 プレゼント用招待券を 希望する(5 組 10 枚) / 希望しない
 招待券送付先: 〒

報道関係のお問合せ先

東京国立近代美術館工芸館 広報担当/島田

TEL: 03-3211-7781(工芸課直通) FAX: 03-3211-7783

E-mail: koge-pr@momat.go.jp 公式HP: <http://www.momat.go.jp>